

平成26年度 第66回卒業証書授与式 告辞

校長 河田 昌一郎

卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。そして保護者の皆様にはお子様のご卒業を心からお祝いし、お喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、これからこれまでのご両親はじめ、ご家族や先生方の手厚い保護から少しづつ離れ、だんだんと「独り立ちの時」を迎える準備のため、自立の道に向かい、しっかりと歩んで行かれることとなります。

この高校生活を振り返れば、瞬く間の3年間だったことと思います。楽しい時間は早く過ぎていくものです。辛い苦しい時はなかなか時間が過ぎていきません。その意味では皆さんは幸せなことに充実した素晴らしい毎日を送ってきたのだと思います。今、皆さんは自信を持って「自分は成長した」と、はっきり言うことができますか？

これから先、人生は長いです。様々な経験を積んで人間的に大きく成長して下さい。皆さんの前途が希望に輝く、幸多い人生であることを心から祈っています。

毎年、卒業生を送り出すこの日は、いつも喜びと共に、少し寂しさを感じています。今年は、皆さんに感謝の気持ちがあります。と言いますのは、丁度50年前の昭和40（1965）年の3月に私もこの学校を卒業したのです。皆さんが入学されてから特別なことは何もしていませんが、時々皆さん達と当時の自分達の行動や考えを思い浮かべ、甘酸っぱい青春時代を思い出させてもらうことが出来たからです。

卒業されたら諸君と私は同窓の先輩・後輩です。これからは一緒に母校が益々発展し、良い学校になるように、お互いに力を尽くしましょう。

母校拓大一高は皆さんの心の故郷です。いつでも訪ねて来て下さい。私たちは、卒業生の来校を心から歓迎します。

卒業の饞に拓殖大学の第3代学長後藤新平先生の自治三訣「人のお世話にならぬよう 人のお世話はするよう そしてむくいを求めぬよう」と言う言葉を贈ります。

自分のことだけを考えるのではなく、社会の発展のために役立つ喜びを、ひと知れず、たんとんと実践する人になるよう求めているのだと思います。

そして第4代校長東恩納寛惇先生が定められた本校の教育方針「心身共に健全でよく勉強し、素直で思いやりある青年を育成する」。シンプルな言葉ですが、この一つ一つの言葉の持つ意義は深く、単に高校生向けの指針に留まらず、人が生涯豊かに生きていくためのあるべき姿勢を示しているのだと歳を重ね、多少経験を積んだ今、改めて実践することの大切さを深く感じています。

何をするにしても「正直に」「親切に」「思いやり」を持って「お蔭様で」と言う「感謝の気持ち」で、いつも「笑顔で」「愉快地」やることが大切なのです。皆さんも是非、いつまでもそんな人で居て下さい。

おわりになりましたが、卒業生の門出を共にご祝福下さり、ご多忙の中、ご列席賜りましたご来賓の皆様にご心より御礼申し上げます。今後共、引き続き本校の発展とこの前途洋々たる卒業生諸君の将来を温かくお見守り下さいますようお願い申し上げます。

さあ、諸君は、次のステージに出発です。

「膏雨ひとしく湿さば、礪确やがて花咲かむ」

「拓かでやまじ我が行手」

校歌の精神を胸に、精進して下さい。

平成27年3月3日

